

2013年 12月13日

みらいの扉

高等特別支援学校 支援部 第53号



「クリスマスツリーと親子の攻防」

1年支援部の木戸です。題名の親子とはもちろん私のことではありません（笑）。私の姉と二人の甥っ子の話です。

先日姉と姉の子どもたちと一緒にクリスマスツリーを買いに行きました。私は荷物持ち&子守役です。今回クリスマスツリーは小学2年生の甥の希望で買うことになりました。二人の子どもたちは初めてのツリー購入にウキウキ、ワクワク。みんなでツリーを見つけたところまでは良かったのですが…問題が起こったのはこの後のことです。

ツリーの飾りセットで親子がもめだしたのです…。小学生の甥っ子が選んだ飾りの柄はシマシマ。スタンダードで色鮮やかだけどちょっとハデハデな感じ。私の姉である母親が選んだものは可愛い絵が描いてあるけれど、赤一色でちょっと地味な飾り。まずは母親から、「こっちの方がおしゃれたよ」「熊さんついてるよ」と説得工作が始まります。それに対し子どもは「でも…これがいいなあ…」と粘ります。しばらく続いたこの攻防のあと小学生の甥っ子は「じゃあ、やっぱりこっち」と母親の薦めに従いました。明らかに甥っ子が母親の気持ちを考えてゆずった形です。彼はけなげにも「ほんとはこっち（赤一色）が欲しかったんだ」と笑顔を浮かべ、ハデハデな飾りを返しに行こうとしました。



と、そこへ乱入してきたのが3歳の甥っ子でした。「僕はこっちがいいの!!!」と泣き叫び、お兄ちゃんが返しに行こうとしたハデハデ飾りを奪い取ったのです。この突然の乱入

者には姉も対抗できず、ついにハデハデ飾りが購入されました。後でこっそり小学生の甥っ子に聞いてみたところ…ほんとはやっぱりハデハデ飾りが良かったのだそうです。



この件で私が感じたことは、子どもは親の思いをくみ取り、自分の意に反するものを心から望んでいたように思おうとすることもあるということです。相手を思う気持ちがあるのはすごくいいことですが、自分の進路を決めるときなどには困るのでは？と後悔してしまいました。今回のようにツリーの飾り付け程度のことであればかまわないし、お金を出すのは親なのでから親の意見が優先されてもよいでしょう。けれどこれが進学や就職などの人生を左右する選択の時ではどうでしょうか。それでは困ると思うのです。この学校の生徒たちは、卒業するまでに就職という大きな選択を迫られます。その時に、親や周囲の人の気持ちや助言を受け取め、自分の気持ちと現実との折り合いをつけながら、後悔をしない選択をして欲しいと思います。

さて、先ほどの話の続きですが、クリスマス飾りの攻防をした後、家に帰りみんなで飾り付けをしました。わいわいがやがや言いながら飾り付け。二人の甥っ子も自分で選んだ柄に満足しとても嬉しそうでした。全ての飾り付けが終わってから姉は一言、「この柄でよかったね」とつぶやいていました。



クリスマスまであと十日あまり。みなさん素敵なクリスマスをお過ごし下さい。（学年支援部 木戸）

記事紹介

学校と私：「自立」と「自律」学んだ部活

- サッカーFC 岐阜選手・服部年宏 -

毎日新聞 2013.08.05 東京朝刊

サッカーを始めたのは小学1年のときです。サッカースクールに入りました。



生まれ育った静岡県清水市（現静岡市清水区）はサッカーが盛んで、小学校に入学したらみんな当たり前のようにサッカーを始めていました。幼稚園のときにスクールに入った友達もいましたから、私も自然に始めました。

とにかくサッカーが好きなのは今も昔も変わらない。スクールだろうとクラブ活動だろうと、嫌々やった記憶はないですね。

高校は地元の東海大一高（現・東海大翔洋高）に通いました。生活面での指導は厳しかったですね。サッカー部の早朝練習があると、疲れて授業中に眠ってしまうことがあって、そんな時には担任の先生にもものすごく怒られました。勉強はけっこう頑張っていた方だと思いますが。

高校時代はサッカー一色でした。大阪、広島など、県外から入学してきて寮生活を送っている部員もいました。生活習慣や言葉遣いがいろいろなので、新鮮で楽しかったですよ。



サッカー部でお世話になった望月保次（もちづきやすじ）監督の教えで今も覚えているのは「じりつ」という言葉です。『じりつ』には『自分で立つ』『自分を律する』の二つの意味がある。その両方ができないとだめだ」というんです。

「自立」は理解できましたが「自律」の方はよく分かりませんでした。望月監督の言葉をきっかけに『自分を律する』とはどういうことなのかを考えるようになりました。

サッカーを通じて、子供たちと接する機会が多くあります。学校やクラブ活動など、どこで過ごすにしても、相手の立場になって考えられる子であってほしいと思います。「自律」というのは「自分で考える」ことですから。

チームの中ではベテランですし、毎試合ベストのパフォーマンスをするためには、ピッチ外での自己管理を徹底しています。自分自身の代わりは誰もいません。

ピッチの上でも苦しいときに逃げない姿勢を若手の選手に伝えたい。「誰もやってくれない、自分がやる」という強い思いを持って、これからもプレーしていきます。

【聞き手・梶原遊】

